



2019年3月期 決算説明会

2019年5月29日

ユニチカ株式会社

1. 2019年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・種類株式の状況について
- ・3つのGの実現

補足資料

- ・主要施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2019年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・種類株式の状況について
- ・3つのGの実現

補足資料

- ・主要施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

高分子事業の販売が好調に推移したことなどにより増収。

営業利益は、原燃料価格高騰などの影響を受け減益。

為替要因の好転などにより、営業外損益はプラスに影響。

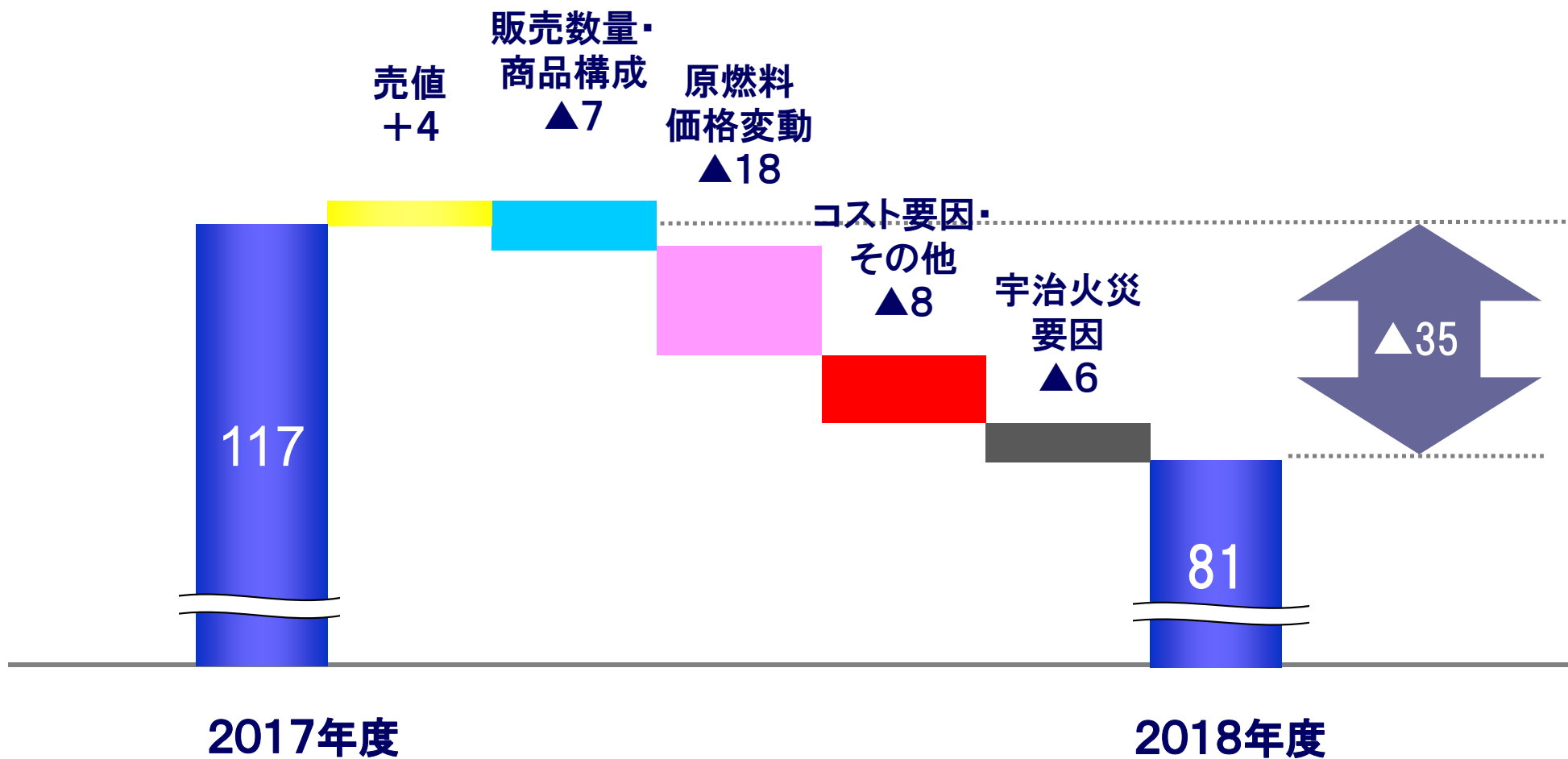
特別損失は減少、税金費用は増加し、当期純利益は前期比で減益。

連結合計 (金額単位:億円)	2017年度 実績	2018年度 実績	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,284	1,291	+7	+1%
営業利益	117	81	▲35	▲30%
営業利益率	9.1%	6.3%	(▲2.8%)	—
営業外収益	6	7	▲1	—
営業外費用	23	18	▲6	—
経常利益	100	71	▲29	▲29%
特別利益	8	4	▲4	—
特別損失	17	8	▲8	—
税金等調整前当期純利益	91	67	▲24	▲27%
親会社株主に帰属する 当期純利益	81	52	▲28	▲35%

減価償却費	44	45	+0	+1%
設備投資	41	61	+19	+47%

営業利益変動要因分析

(金額単位:億円)

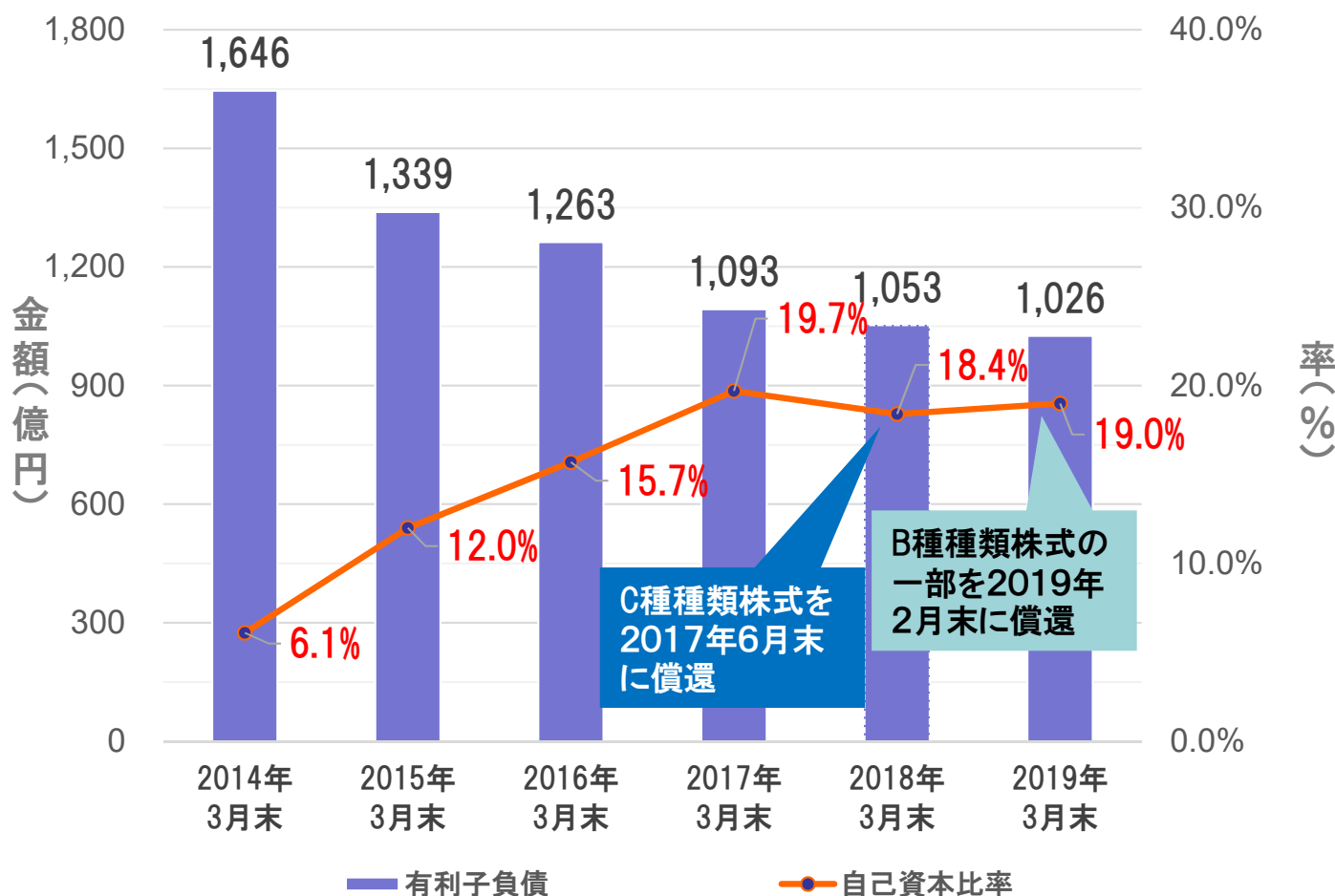


資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2018年3月末	2019年3月末	前期比増減
資産合計	2,014	1,991	▲24
流動資産	930	899	▲31
固定資産	1,085	1,092	+7
負債合計	1,607	1,577	▲30
純資産合計	407	414	+6
株主資本	357	373	+16
その他の包括利益累計額	15	6	▲9
非支配株主持分	36	35	▲1

有利子負債	1,053	1,026	▲26
自己資本比率	18.4%	19.0%	+0.6%

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■有利子負債削減
2019年3月末は1,026億円となり、着実に削減は進んでいる。現預金を差し引いたネット有利子負債は800億円。

■自己資本比率
2019年3月末は2018年3月末と比較して0.6ポイント増加し19.0%となった。

1. 2019年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・種類株式の状況について
- ・3つのGの実現

補足資料

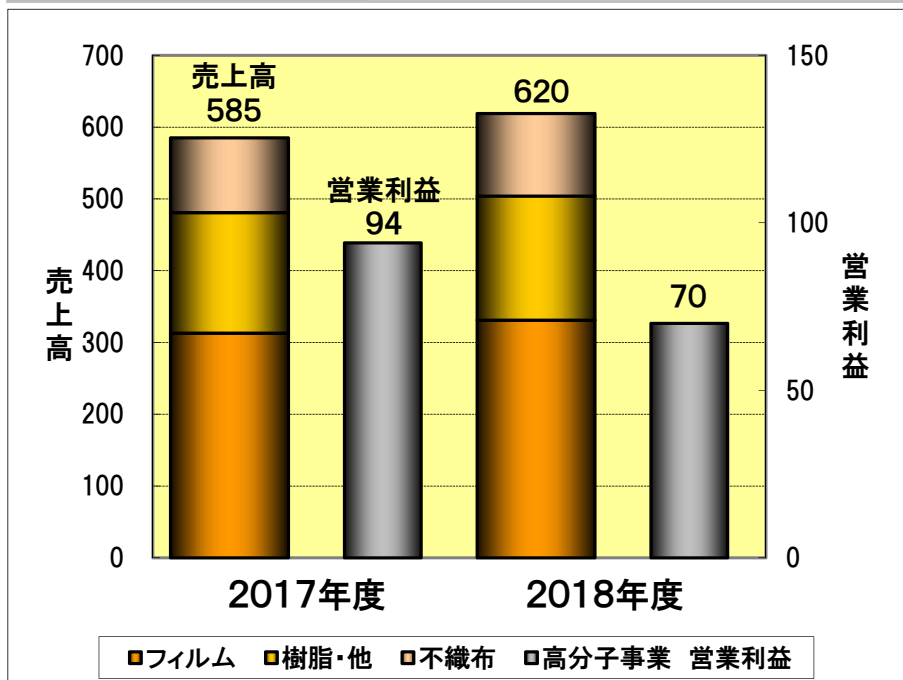
- ・主要施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	2017年度 実績	2018年度 実績	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,284	1,291	+7	+1%
高分子事業	585	620	+34	+6%
機能材事業	125	127	+2	+2%
繊維事業	536	529	▲7	▲1%
その他	37	15	▲22	▲59%
営業利益	117	81	▲35	▲30%
高分子事業	94	70	▲24	▲25%
機能材事業	12	12	▲0	▲1%
繊維事業	13	2	▲11	▲88%
その他	▲3	▲3	+0	—

原燃料価格の上昇や火災影響等により減益

(金額単位: 億円)	2017年度	2018年度	前期比 増減
高分子事業 売上高	585	620	+34
フィルム	313	331	+18
樹脂・他	168	173	+5
不織布	104	115	+11
高分子事業 営業利益	94	70	▲24



□フィルム [増収・減益]

◆ 包装分野

包装分野は、季節商品など販売が堅調。インバウンド消費やコンビニエンスストア向け商品などの需要も拡大。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」など高付加価値品の販売も拡大。

◆ 工業分野

上期は電子機器分野で好調に推移、下期にはやや減速。シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」など、高付加価値品の販売は好調。

□樹脂 [売上横ばい・減益]

◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

上期は海外向け自動車用途で順調に推移、下期には一部の用途で在庫調整。

◆ ナイロン樹脂

自動車用途などで堅調に推移。

◆ 熱可塑性飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」、環境配慮型水性エマルジョン「アローベース」は、太陽電池用途が低調に推移。

□不織布 [増収・減益]

◆ ポリエステルспанボン

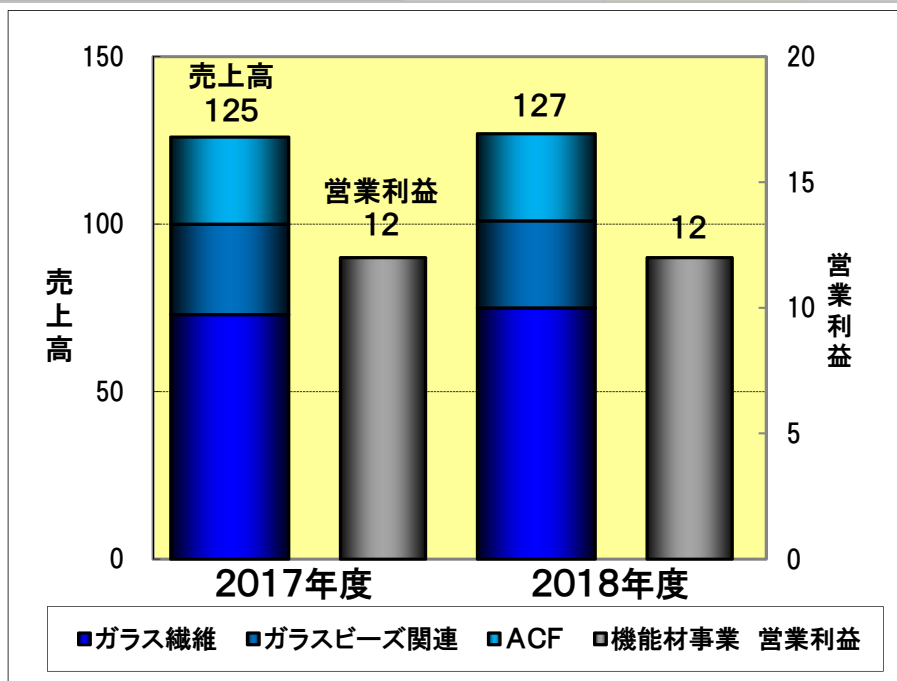
各分野とも概ね堅調に推移。インテリア及び建材分野の一部用途は低調。タイ子会社では新機台の稼働が進む。

◆ コットンспанレース

スキンケア用品などの旺盛な需要に支えられ好調に推移。

ガラス繊維は産業資材分野で販売堅調

(金額単位:億円)	2017年度	2018年度	前期比 増減
機能材事業 売上高	125	127	+2
ガラス繊維	73	75	+2
ガラスビーズ関連	27	26	▲1
ACF	26	26	+0
機能材事業 営業利益	12	12	▲0



□機能材
[増収・
利益横ばい]

◆ ガラス繊維・産業資材分野
透明シートなどの建築用途の販売が堅調に推移。

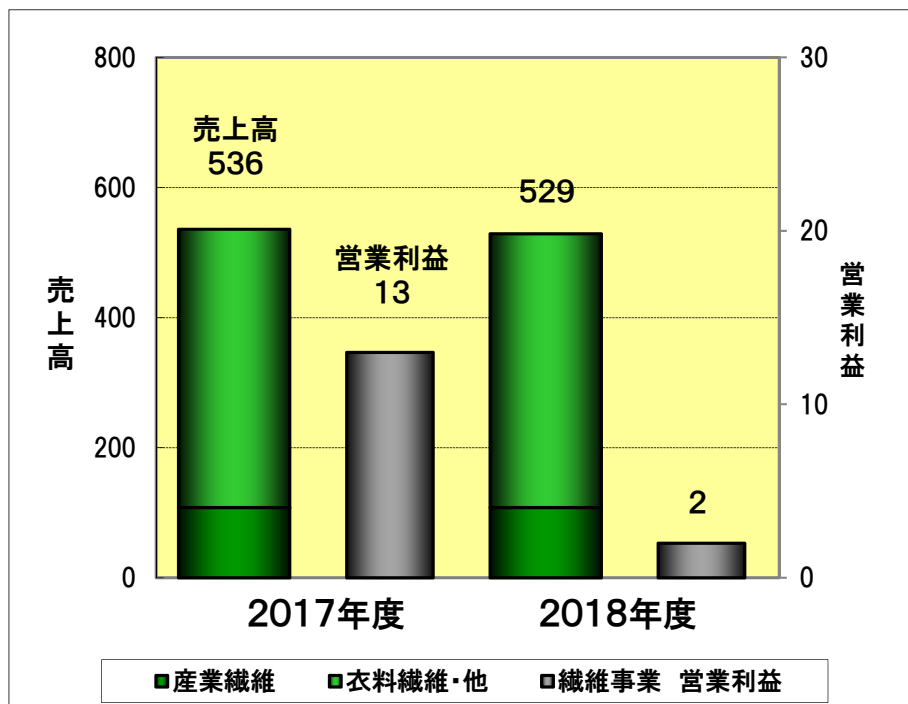
◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、半導体市況の悪化の影響を受け、販売は減少。超薄物タイプを中心とした高付加価値品は、情報端末機器用途が堅調に推移。

◆ ガラスビーズ
電子部品及び自動車部品などの工業用途が好調に推移したが、反射材用途は需要減少などの影響を受けた。

◆ 活性炭繊維(ACF)
主力の浄水器用途は水栓一体型を中心に好調に推移し、VOC除去用途も好調も、工業用途は低調。

原燃料価格高騰、衣料繊維の販売低調により、収益は減少

(金額単位:億円)	2017年度	2018年度	前期比 増減
繊維事業 売上高	536	529	▲7
産業繊維	108	108	▲1
衣料繊維・他	428	421	▲7
繊維事業 営業利益	13	2	▲11



□繊維 〔減収・減益〕

◆ 産業繊維

原燃料価格高騰等の影響を受けて、収益は減少。

ポリエステル短繊維は、生活資材用途で販売は低調。

複合繊維などの高付加価値品の販売、及びポリエステル高強力糸は、土木建築用途を中心に堅調に推移。

◆ 衣料繊維

主軸のユニフォーム分野のワーキング用途は好調を維持、寝装分野で需要が回復、高機能原糸販売も堅調に推移。

スポーツ分野、レディス分野は低調に推移。海外向けデニム生地の販売も低調。

1. 2019年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・種類株式の状況について
- ・3つのGの実現

補足資料

- ・主要施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

2020年3月期通期業績予想

(金額単位:億円)	2018年度	2019年度 予想	前期比 増減
売上高	1,291	1,320	+29
営業利益	81	65	▲16
営業利益率	6.3%	4.9%	▲1.4%
経常利益	71	52	▲19
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	27	▲25

前提	2019年度
原油(\$/バレル)	60
為替(円/\$)	110

2019年度予想(億円)	
設備投資	102
減価償却費	45

セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な施策
	2018年度 通期実績	2019年度 通期予想	前期比 増減	2018年度 通期実績	2019年度 通期予想	前期比 増減	
高分子事業	620	650	+30	70	52	▲18	<p>包装フィルムは、原燃料価格等のコスト上昇や為替変動などの環境変化に柔軟に対応し、「エンブレムHG」などの高付加価値品の拡販に注力。工業フィルムは、「ユニアミド」や「ユニピール」などの高機能フィルムの採用アイテム拡大を進める。</p> <p>樹脂は、自動車用途などで高付加価値品の拡販を強化。生産能力の増強体制が整う「Uポリマー」は、用途拡大及び海外展開を強化。不織布は、建築資材関連需要を取り込み、海外では、タスコの独自性の高い製品の採用拡大を更に進める。</p>
機能材事業	127	135	+8	12	11	▲1	<p>ガラス繊維は、建築資材用途で拡販を進め、顧客深耕や新規案件の早期取り込みに注力。ICクロスは、超薄物タイプなどの高付加価値品の商品構成を高める。</p> <p>活性炭繊維は、フィルターの高性能化を更に進め、浄水器用途での海外展開を進める。</p>
繊維事業	529	535	+6	2	4	+2	<p>産業繊維は、当社の強みであるポリエステル共重合技術などを活かした高付加価値品の開発・拡販を加速。</p> <p>衣料繊維は、原糸・原織開発に注力すると共に、海外サプライチェーンの拡充、再構築により収益改善。</p>
その他	15	0	▲15	▲3	▲2	+1	耐火スクリーン是正対応がほぼ完了。
合計	1,291	1,320	+29	81	65	▲16	

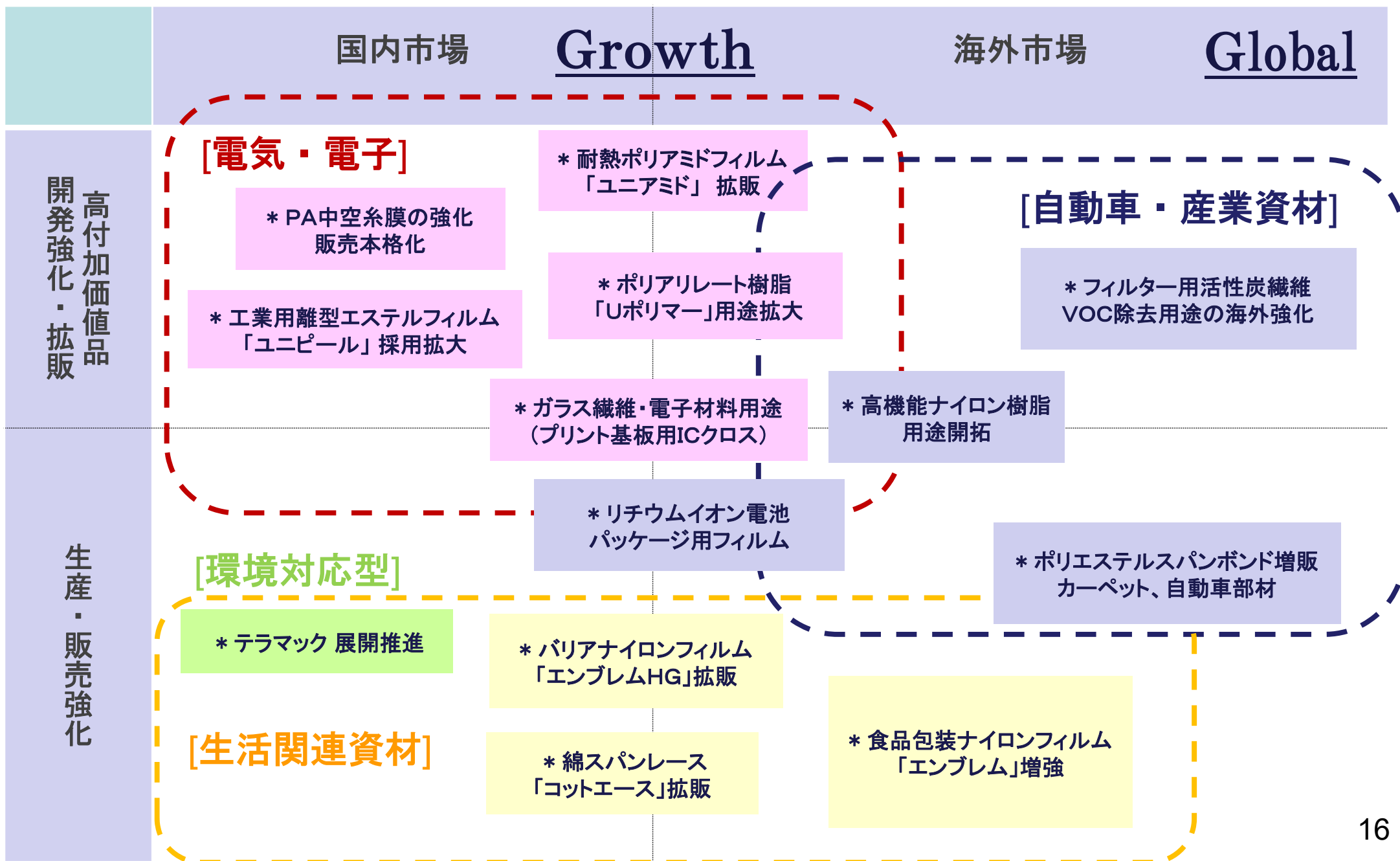
種類株式の状況について

	A種種類株式	B種種類株式	C種種類株式
目的	借入金返済に充当し、財務体質の健全化を目指す		成長事業への投資資金
割当先	三菱UFJ銀行	みずほ銀行、 三菱UFJ信託銀行	ジャパン・インダストリアル・ソリューションズ
発行金額	約217億円	約58億円 みずほ銀行：約36億円 三菱UFJ信託銀行：約21億円	100億円
配当率	1.20%	2.374%	6.00%
	(非累積=次期以降へ配当繰越無し)	(累積=次期以降へ配当繰越あり)	
取得条項 (当社の権利)	払込日以降いつでも、種類株式の償還が可能		
取得請求権 (株主の権利)	金銭	2018/7/31～	金銭にて償還済 (2017年6月)
	普通株式	2020/7/31～	
最大希薄化率 ※	108.1%	28.6%	

注)本頁は2014年5月26日付公表「第三者割当による種類株式の発行、定款一部変更、資本金、資本準備金及び利益剰余金の額の減少、剰余金の処分並びに金融支援要請に関するお知らせ」を要約したものであり、実際の内容については同公表資料による記載の事項が優先します

※ 転換価格が下限である350円の場合の最大希薄化率

3つのGの実現 ~ Growth・Globalの主要施策



1. 2019年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・種類株式の状況について
- ・3つのGの実現

補足資料

- ・主要施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		アジア市況の回復の遅れ等により、販売数量は減少、売上は横ばい。	△
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコーン向けなどに採用が拡大しており、売上高は1.6倍に拡大。 プラスチック減量、環境負荷低減に寄与する素材として、展開を強化。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡大		一部用途で需要が縮小したが、電気・電子分野などの新しい用途で展開中。	△
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」は国内外に拡販、売上高は1.5倍に拡大。	○

成長戦略（高分子セグメント）

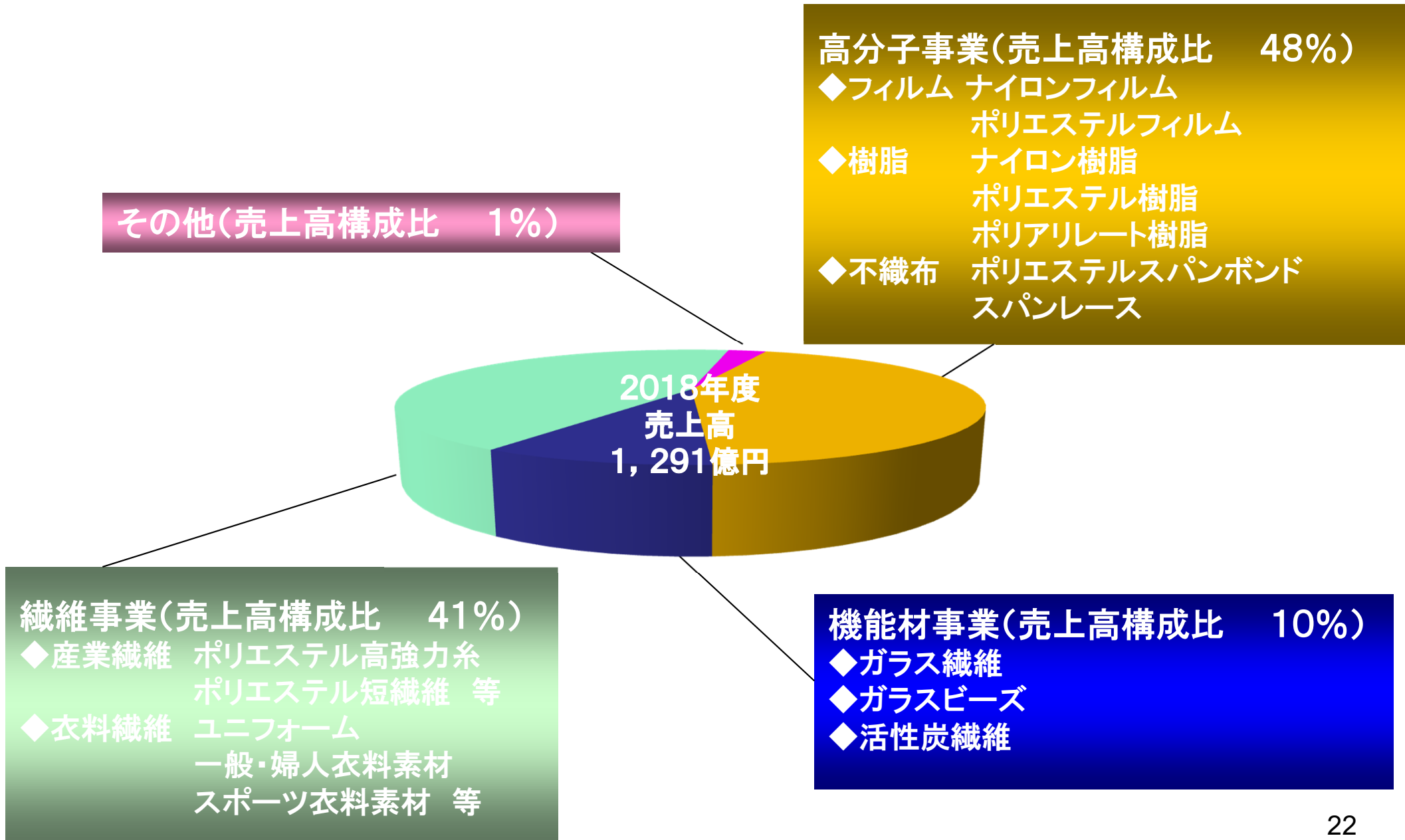
	施策		進捗状況(前期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		国内メーカー向け太陽電池用途の需要が減少。	△
	「Uポリマー」の拡販 ※：既存用途を含む		従来の情報端末機器用途に加え、海外向け自動車部品用途で販売を伸ばすが、下期に一部用途での在庫調整の影響を受ける。	△
	高機能性PETの拡販		化粧品ボトル用途などの差別化アイテムの販売は堅調。	○
不織布	コットンспанレースの拡販		スキンケア用途などでの旺盛な需要に支えられ販売は好調。	○

成長戦略（機能材、繊維セグメント）

	施策		進捗状況	評価
活性炭 繊維 (ACF)	空気浄化用フィルターの拡販による海外市場の開拓		中国を中心にVOC除去フィルターの販売が堅調。	○
ガラス 繊維	産業資材・電材用途(特殊クロス等)の拡販		産業資材分野は建築用途の販売好調。電材用途も、超薄物タイプの販売が増加。今後は、5G向けの低誘電タイプなどのグレードを展開。	○
ガラス ビーズ	需要拡大が見込まれる高精度ガラスビーズの生産強化・拡販		工業用は電子部品及び自動車部品用途などで好調も、反射材用途は苦戦。	△
産業 繊維	ポリエステル 付加価値品の拡販		主要顧客への付加価値品の販売が拡大。	○

※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション



ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。